



軟弱地盤にも対応可能

JFEシビル

独自工法の適用拡大

工期短縮、コストも減

JFEシビル(藤井善英社長)は、工期短縮を実現できる「いちいち基礎工法」を改良し、適用範囲を拡大している。地盤や建物規模での制約が緩和できる新工法のマーケットの浸透を目指す。顧客に対しても幅広い場面で提案できるため、営業面での貢献も期待できそうだ。

いちいち基礎工法は、基礎杭と柱を一体化する工法。既存の工法に比べて基礎梁が省略できるほか、杭の本数を減らすことができ、基礎梁がないため掘削量も減り、エコな工法でもある。

藤井社長は「当社のシステム建築『メタルビル』は、工業化製品であるため在来工法に比べ短工期・低コスト。115件の実績を持つ『いちいち基礎工法』を採用できる地盤状況なら、さらに工期短縮

・コスト削減が図れる。また現場労務費も削減できる」と、市場ニーズは高いとみている。実際に2016年に入ってから、受注確実なものを含めると54件中の26件がいちいち基礎工法を採用。

いちいち基礎工法は、基礎梁がないので、ある程度締まった地盤が必要であったが、杭頭回りの地盤改良により杭頭変位を抑えることができた軟弱地盤にも対応可能となった。これまで平屋での適用が

主だったが、今後、物流施設などの大規模建築物にも適用できるよう試設計で構造検討やコスト検証をしている。

昨年は沖縄県でいちいち基礎工法が初めて採用された。コストメリットが出るほか、発想の斬新さも採用の理由になったようだ。今後、同工法の適用範囲が広がることで、システム建築事業全体の受注拡大につながりそうだ。